

---

# ドルチェ (FA/RE/g)

omotenac

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ドルチH (FA/RE/g)

### 【ZINE】

Z0541Z

### 【作者名】

omotenac

【あらすじ】  
ロイヒード／女体化／下着の話

ロイはかわいい下着が好きだ。

三十路の、それも軍人の男がかわいいのつていつたらかなり気持ち悪いっていうか変態っぽいけど、自分で着るんじゃなくて、俺が見てるのを見て、それを脱がせるのが楽しいらしい。

現に今だつて、俺のシャツのボタンをはずして、その下にはすぐブラだから、見るとすぐ嬉しそうな顔をした。

「珍しい色じゃないか」

今日着てきたのはこの間買つたばかりのショーツとのセット。上下ぱりぱりな下着は色気がないって言られて以来、ロイとそういうことするつてわかる日は気をつけて下着を選んでる。そうでなくとも最近はそういう、上下揃いのセットものばかり買つてるんだけど。

珍しいっていうから見下ろしてみたブラは若草色で、カップの部分には黄色や緑の糸で花模様が刺繡がされてなんとなく春っぽい。俺が着るのは大抵白かピンクとか、薄い色ばかりだから確かに珍しいかも。

胸の真ん中のところにはやつぱり若草色の小さいリボンと花飾りがついてるんだけど、ロイはいつもみたいにその花飾りのところにキスをして、もう一回笑いながら俺に言った。

「かわいいね」

嬉しい顔にも色々種類があるけど、今俺の上に覆いかぶさつてるロイの顔は、例えるならああだ。ケーキを貰つたときの女の子。三十過ぎたおっさんにそんな例えはおかしいかもしれないけど、女の子がうわー、って歓声あげる時みたいな、そんな顔なんだ。本当に。

「君の肌は白いから」

ロイの指はシャツのあわせを両側に開いて、ブラの縁飾りのレー

スをついついとなぞる。指はそれからカツプの中心のリボン飾りのところに下りて、谷間なんてほとんどないその周辺をひっかくみたいにして滑る。

「濃い色も良くなじんだね」

俺はこれに結構弱い。指で押されたレースが肌をこする感触は別に痛くはないんだけど、何度も繰り返されるとだんだんむず痒くなつてくる。

ロイと俺が初めてこいつの関係になつたのは俺が十三歳になつたばかりの頃で、女に不自由したことがないっていうロイと違つて当たり前、だけどまだ男なんて知るわけがない年の俺の体は痛い以外になんにもわからなかつたくらいなのに、今じゃこいつやって触られて気持ちのいいところとか、もっと触つて欲しい、って思う場所がたくさん出来た。露骨にいえば性感帯つてやつ。

膝小僧とか、ふとももの本当にざりざり足の付け根のところ。一の腕の内側の柔らかいところ。わき腹。耳。

ちょっと前までは欠けた右腕と左足を補う機械鎧と生身の繋ぎ田のところなんていうのもあつたけど、半年前からそこは何事もなかつたみたいにちゃんとした生身の手足がついてる。

その、生身の体を取り戻した半年前まで俺は色々あつて男として暮らしていた。旅続きの上に、男ばかりの軍隊に関わるとなればその方が危険も少なかつたから。

幸か不幸か体は発育不良気味で胸はぺったんこだし、なにより無骨な機械鎧にはあんまりにも不似合いだから、女性向けの、レスス飾りのついた下着なんて使うようになつたのはほんとに最近だ。以前は下着代わりに胸を固定するボディースーツをつけて、それからタンクトップと上着を重ねてた。まんがいちにも女つてことがばれたら困るからつてことで重たいスーツを外すことはほとんどなくて、生身の体に戻つてからしばらくは体が軽すぎて落ち着かないような感じもしてたくらい。

そんな、ちつとも色気なんてない子供におつたてるロイつて変態

なのが、結局男って肝心の下半身の器官があればそれ以外のことはあんまり気にしないのかなって思つて、一度そう言ってみたらロイはすごく変な顔をした。

「君がかわいい下着を着てくれるといつならそれは嬉しいが、今までも十分だよ」

今までもいいけど、可愛いの着た方が嬉しいってことらしい。だから将来やるべきことリストの中に文物の下着を着てみる、つていうのを付け加えたのが十五歳になる直前。

アルの全身と自分の手足を取り戻すにはそれからまた一年かかって、それでようやく文物の下着を買って着てみせたらロイはすごく喜んだ。多分ロイに尻尾がついてたらぶんぶん風が起るくらいの勢いで振つてたと思う。

まだ男として振舞つてた頃、軍の男の人ばかりで女の下着の話になつたことがあった。

ロイとそういう関係になる前の本当に子供の頃だ。五・六人いた男の人たちが、上と下は揃いじゃないといけない、とかパステルカラーがいい、とか胸の真ん中のとこにリボンかお花がついてるやつがいい、とか、みんな揃つて同じことをいうからその時の俺は呆れたんだ。別に自分が着るわけじゃないのにそんなにこだわることないよなつて。

だけど、初めて買った下着は結局、大人たちのいうところの「男のロマン」の条件を備えたやつだった。真っ白でレースで胸の谷間のとこにリボンと花がついてるの。

それをロイは呆れるくらい何回もかわいいって言つて、とにかくすごく嬉しそうな顔するから、そうしたら次もそういうの着てみようかなつて思うようになる。

初めて文物を買う時、適当に飛び込んだらすぐ親切にしてくれたランジェリーショップのお姉さんのところにまた行って、これも一昨日その店で買ったてきたものだ。

六年がかりの旅が終わつてほつとしたせいか、俺の体は急速な勢

いで成長していく、身長も少し伸びたけどとにかく横の変化が多い。太ったんじゃなくて、女性の丸みがついてきたんだってランジェリーショップのお姉さんは教えてくれた。成長期はこまめにサイズを測つてちゃんと体にあつた下着を使わないと体の線が崩れるんですよ、って言われて月に一度は通つてるんだけど、その度に数字は増減して、結局毎月新しい下着を何セットか買う羽目になる。最初の頃はやっぱり慣れないし、いきなりレースびらびらのやつ買うのは恥ずかしくて、地味なスポーツタイプとかも買ってたんだけど、レースがついたふりふりのやつの時と、飾りも素つ氣もないのを着てる時じゃロイの表情が分かりやすいくらい違つて、気がつけば今はロイが喜びそうなふりふりとかひらひらのかわいいのばっかり買つてゐる。

下着だけじゃない。

マニキュアとか口ロンとか、化粧…色つきのリップを塗るだけで、俺がほんのちょっとでも女の子らしさをやつてみるとロイはすごく喜んで、褒めてくれる。

ストッキングは窮屈だしヒールはふらふらするし、マニキュアはすぐ剥げちゃうし、マスカラも口紅もべたべたして、はつきり言つて好きじゃない。だけど、そういうおしゃれがどんなにちょっとしたことでもロイはすぐに気がついて似合つよ、かわいいよ、って言つてくれるんだ。

三十過ぎた男が未成年の俺にかわいいかわいい言つてゐるのって変態っぽいけど、でもいつも企んでるような含み笑いじゃなくて、本当に嬉しそうにこにこ笑つてくれるから、だから俺も面倒だけど女らしい色々に挑戦しちゃうんだ。

周囲の人はロイが俺に惚れ込んでるんだっていうけど、俺だってロイが笑つてくれると嬉しくて、ロイが笑つてくれることを期待して下着を選んでる。おしゃれをする。

これがいわゆる、恋人の色に染まるつやつだとしたら、それはとっても嬉しい。

嬉しいって思つたけど、俺はロイみたいに素直に表情に出せないから、代わりに胸元にあるロイの頭をぎゅって抱きしめた。

エド？、って疑問形で名前を呼ぶくちびるの動きとか息とか、肌にあたつてくるすぐつたい。

だから笑っちゃう俺の顔も、ケーキを貰つた女の子みたいな顔だつたら、いいな。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0541n/>

---

ドルチェ (FA/RE/g)

2010年10月10日22時09分発行